



ゲリラ豪雨、停電・冠水対策を



◁9月議会で一般質問をする浦田充。ゲリラ豪雨対策、選挙活動対応、駅周辺バリアフリー化等について質問した。

📌日常生活用具：障害者等に対して、障害者等の日常生活上の困難を改善し、自立を支援し、かつ、社会参加を促進すると認められるものなどの要件を満たす用具の購入費用を補助する制度です。
例) 介護ベッドや入浴補助具など

道路冠水等の積極的な情報収集・対策を

8月7日には、ゲリラ豪雨により、江川周辺だけでなく、桶川駅東口周辺においても道路冠水が発生しました。

当時の冠水状況について質問したところ、市は、「駅東口エリアにおいては、…連絡や対策の要望等が寄せられておらず、床下浸水及び道路冠水場所が特定できないことから…調査は実施していない。」と答弁しました。

要望がなければ、調査もしないことには驚きました。市は、東口駅周辺の冠水は、全くないことにしているのです。

市民の安全対策を考える中で、冠水状況の把握はその第一歩です。SNS などでも、リアルタイムで情報が出る時代です。積極的な情報収集を求めます。

アンダーパスの冠水対策を求む

高崎線をまたぐ、若宮・朝日と南・神明を結ぶ富士見通りアンダーパスでは、大雨後、歩道の一番深い部分に、水が数日間溜まり、通行が困難な状況になることがあります。

8月7日のゲリラ豪雨後、歩道に水が溜まり続け、歩行者の通行ができなかったとの情報もいただきました。アンダーパスは、入り口付近から最深部の様子はわかりにくいので、歩道も通行止め等の措置をとる必要があります。

しかし、市は、アンダーパスの冠水も、把握していなかったようです。

そこで、対策と冠水の把握のための監視カメラ設置や冠水対策を求めました。

しかし、カメラ設置には否定的で、「出水時期前には排水工の清掃等を実施してまいりたいと考えております。」との答弁に留まりました。

改めて、冠水対策とその把握について、市に要望していきます。

今年の7月27日に、落雷によって市内で数時間停電した地域がありました。真夏の停電で、エアコンが使えない状況は、危険です。

当日、桶川市はホームページで停電していると発表しました。しかし、エアコンの使える施設等の案内もなく、停電が熱中症に直結するという認識がないことが明らかになりました。

同じく停電した上尾市では、停電時間などの状況は異なるものの、熱中症対策として市内4か所に自主避難所を開設し、18名の方が避難されたそうです。

桶川市と上尾市の差は为什么呢。

避難所開設基準策定を

「このくらいの気温なら大丈夫」と、健康な職員の感覚で判断したのでしょうか。今後もそのような運営になると、身体の弱い方や高齢者は、置き去りにされてしまいます。

桶川市では、避難所開設の目安となる気温などの基準はないようです。身体の弱い方などを考慮した上で、暑さ指数などを用いた客観的な開設基準を策定し、示すべきです。

今のままでは、どのような状況なら開設するのかわかりません。これでは、病気や障害でエアコンが不可欠な市民は、毎年おびえながら夏や冬を過ごすことになります。

蓄電池購入の補助拡大を

また、素早い避難の難しい重度の障害者等の日常生活用具に、停電対策としてエアコン等にも対応した蓄電池設置の補助ができないか、問いました。

市は、災害への備えであることから、「日常生活用具という観点から…難しい」と答えました。そして、停電時等は「空調設備が使用できる避難所への避難を検討してもらう」として、補助を否定しました。

そもそも、「すぐに避難することが難しいから、エアコン等にも使える蓄電池等の補助ができないか」と質問しているのに、「避難所へ避難しろ」という答弁では、避難できない人の命は失われてもよい、とすら感じられます。

人工呼吸器装着者には、停電による人工呼吸器の停止を防ぐため、それに対応する蓄電池購入を補助しています。近年、エアコンも生命維持装置と言って良いほど、必要性が増しています。対象拡大すべきです。

関連して、停電になると、在宅酸素を使っている方、頻繁に痰の吸引が必要な方など、直ちに命の危険がある方は、人工呼吸器装着者だけではなく、在宅酸素や吸引器も蓄電池補助の対象にすべきです。

昨年の市議選では、駅の混雑時間に駅西ロデッキで演説を伴わない、違法なビラ配り、自粛要請の中で駅西ロデッキでの駅立ちなどが行われ、混乱しました。

桶川市選挙管理委員会に対して、候補者が集中する時間帯や最終日には、駅前に選管職員等を配置すべきではないかと、問いました。選管は、トラブル防止に「今後も、立候補者を対象とした説明会や広報等を通

じて、制度の周知に努める」と答弁しましたが、市議選への反省がありません。

選管職員等の配置についても「これまで同様、可能な限り現場対応について取り組んでまいりたい」と現状維持です。先の都知事選でも、様々なトラブルがありました。選管には情報収集・対策に全力を挙げてくださいたいと思います。

選挙の混乱防止強化を



浦田 充



@mitsuru287



@u_mitturu



各種SNSでも
発信中！

＜浦田充（うらたみつる）＞
1992年桶川市生。デュシェンヌ型筋ジストロフィー
ひがし幼稚園卒園▶朝日小学校▶蓮田養護学校▶上尾
高校卒業（教育長賞）▶立正大学法学部卒業（首席）。
2019年桶川市議会議員選挙初当選（最年少）。2023
年再選。総務常任委員会委員。議会だより編集委員会副
委員長。埼玉県中央広域事務組合議員。

ホームページ



浦田充

長寿命化工事はバリアの長寿命化か

市長、バリアフリー化やる気ゼロ。同年代の川越はすでにバリアフリー化も。

現在、桶川駅西口ペDESTリアンデッキの大規模な改修工事が行われています。この工事は、橋梁長寿命化計画によるもので、デッキの長寿命化を目的としています。

残念ながら、既存設備等の更新が主で、スロープやエレベーター、屋根の設置など、バリアフリー化がなされるわけではありません。

そこで、改めてデッキのバリアフリー化を求めました。これに対し、市長は、将来的にデッキは「撤去する」か、「残す場合は建て替える必要が出てくる」ため、「今多額の投資をしてバリアフリー化することはない」と、既存のデッキのバリアフリー化はやらないという旨の答弁をしました。

しかし、冒頭に書いたように、現在行われている工事は、長寿命化工事です。既存のデッキのバリアフリー化をしないなら、この工事は、「バリアの長寿命化工事」にほかなりません。

近隣市のペDESTリアンデッキなどをみても、デッキを撤去したり、すべて架け替えたりしたところはありません。

例えば、桶川と同年代に作られた川越駅ペDESTリアンデッキは、既存のデッキを改修し、バリアフリー化しました。

桶川も、ロータリーのマイン側にエレベーターを設置したり、屋根を設置したりすることは、可能なはずです。

今回の工事は、大規模に足場も組んでいます。本来ならば、そうした機会を利用して、バリアフリー化工事もすれば、費用も抑えられます。今回の工事では、叶いそうにありませんが、長寿命化工事をするなら、バリアフリー化も真剣に検討すべきです。



バリアフリーマスタープラン、早急に作成する努力を

駅西口も含めて、桶川市のバリアフリー化計画は、その方針すらあいまいです。

市に対し、今議会でも、法律で努力義務とされるバリアフリーマスタープランの作成を求めましたが、拒否しました。作成に向けた努力をすることすら拒否しているのです。

行き当たりばったりのバリアフリー化では、統一感がなく公平性に欠けます。また、計画性がないがゆえに、コストが余計にかさんだり、見逃しも多くなり、不十分なバリアフリー化になったりしかねません。

さらに、街のバリアフリー化を願う市民にとっては、いつまでに、どこがバリアフリー化されるのかわからなければ、明るい未来の希望を持つこともできません。

バリアフリーマスタープランでは、作成の準備にも国からの補助金があります。

例えば、市民と街歩きをしてバリアを見つけるなどの経費も補助されます。補助を受けながら、市民と一緒にバリアフリーを考えられるこんな良い機会は、バリアフリーマスタープラン以外ありません。

バリアフリーマスタープラン作成にデメリットはありません。あるとすれば、行政が長期間それに縛られるということですが、長期の視点で計画的に物事を実行する、街づくりをするのは行政として当たり前です。

桶川市の行政は、長期的な視点を欠いています。これでは、明るい未来はありません。

来年には市長選もあります。次期市長には、このバリアフリー消極市政を改めていただきたいと切に願います。

令和五年度決算、変わらぬ市政に反対

主な反対理由は、北村が反対討論で述べた通りです。今回は、以下の点を紹介します。

行き当たりばったり行政

施設の建築工事では、入札での価格決定後の設計変更が必要となり、費用が後から膨らむケースが目立ちます。これにより、入札参加者上の公平性を欠き、計画的な財政運営も難しくなります。

反ゼロカーボンシティ行政

樹木伐採や歩道の植樹帯を舗装や防草シートで覆うなど、緑を減らす行為も問題です。伐採後、新たに植樹するなどせず、一斉に伐採して、その後は未定などという無計画なことは、ゼロカーボンシティ宣言をした自治体に不適切です。

市民・バリアフリー軽視行政

駅西口デッキについては、現状も見ず、通行者の声も聞かず、デッキの取り壊しの可能性を示しています。そのような態度こそ、市民軽視です。デッキの長寿命化工事をするのであれば、現状のデッキでのバリアフリー化を真剣に考えるべきです。明らかに言っていることとやっていることが矛盾しています。

また、バリアフリーマスタープランの作成拒否も大きな問題です。なぜ、法律で定められた努力義務を無視して、頑なに拒否するのか、理解に苦しみます。

バリアフリー軽視を体現しています。許されません。

条例等審査 決算審議

鴨川保育所大規模改修は、改修中に使う仮設園舎のリースについて、入札結果及びお金の使い方に疑義があり、反対しました。

また、道の駅指定管理者の指定については、指定管理者の完全親会社の財務諸表詳細が議会に示されず、審議を尽くせず、反対しました。

12月議会は、12/3(火)から始まる予定です。

一般質問は、

浦田 12/12(木)

北村 12/13(金)

の予定です。

※議会傍聴席（市役所5階）、ライブ配信でご覧いただけます。